

サッカー部設立

の過程

はじめに

サッカー部創設の目的は、明治高校サッカー部という部活動の団体として、公式戦に参加することです。部活動としての活動を認められていないと、公式戦に参加できないからです。

また、サッカー部の創設にあたっては、他の部への影響という問題も考えられます。特に、初年度の部員構成や活動場所といった点は重大な問題かもしれません。しかし部員構成に関しては、近年、部活動に無所属の人が増えている中で、生徒の望むサッカー部の創設は、逆に部活動全体にプラスになると思いますし、他の部への影響は一時的なもので次年度からは、現在ある部活動と変わりなくなると思います。さらに、活動場所の面でも原則として校内の体育施設は使用はしませんので、これも問題はないと思います。したがって、サッカー部の創設は部活動全体の活性化につながるといっても過言ではないのです。

有志サッカーの 今日に至るまでの過程

年度 生徒会長&代表	活動内容など
一九九二 会長長野 吉克 代表落合 三郎	一九九二 会長大掛 勇人 伊織
生徒会長と代表 活動内容など	この顧問の問題を解決するために、生徒会本部では総長（森平伊織）と総務長（小林達也）を中心として文化部の実態調査を行なった。これは、活動していない部や人員の少ない部を統廃合し、それによって手のあいた顧問を新部の顧問になってもらおうとする動きである。この年は有志サッカーとしての活動は行なわれなかった。
一九九一 会長長野 吉克 代表落合 三郎	この年まで新部創設案は生徒会が主導になっていたため、学校側に生徒のやる気が伝わらなかつた。そこで、生徒主体のシステムを作るためにサッカー部を創りたいというやる気のある生徒を集めた。これらの生徒は夏休みに江東区の新砂運動場etcに集まり、団結力をもち活動に打ちこんだ。二学期に入ると本格的に新部創設案が動きはじめた。新部創設には顧問・活動場所・やる気という三つの要素を最低限みたさなくてはならなかつた。有志サッカーは活動場所があり、又、やる気もあつたが顧問がいらないということでこの新部創設の動きに参加できなかつた。

一九九三

三学期の中央委員会で新部について二つの意見がでた。一つは仮にすべての新部を活動させる。もう一つはすべての条件を満たしている陸上部のみを正式に活動させるという意見である。結局、陸上部のみという意見が採用された。サッカー部は部活になるかユースチームに登録しないかぎり試合ができないということからだんだんと意欲が落ちていった。

一九九四

有志サッカー動きなし

一年間動きのなかった有志サッカーが息を吹き返した。田中徹太郎先生が顧問を引き受けて下さったことにより高IIを中心にして活動を始めた。サッカーの活動の他にも学校側に請願書をたくさん出し、やる気を伝えた。

一九九五 会長 廣田 孝

代表 高木 雄志

決定事項は左のページの請願書の通りです。

おわりに

有志サッカーの今日に至るまでの過程を表形式でまとめてみましたが、これを見てもわかるように、一時期サッカー部創設は不可能であるのではという段階にまでいきました。しかし、有志サッカーの人たちのためなめ努力と絶対にサッカー部をつくるぞという意欲によって再びサッカー部創設の機会が訪れました。ついに彼らの努力が報われようとしているのです。ですから、サッカー部創設の発起人の人たちのためにも有志サッカーをサッカー部として認めてもらえよう。全校生徒の皆様、ご協力お願いします。

ところで、部活動を創設する時に必要な材料というのは、絶対新しい部をつくるぞという意欲や熱意と顧問の先生、そして活動場所の三つです。これらの材料を全てそろえるというのは、特に運動部の場合、けっこう困難なことだと思えますが、しかし発起人たちの努力次第ではどうにでもなることなのです。ですから、現在、有志活動などを行っていて部活動にしたいと思っている方々、全部はうまくいかないと思いますが自分の夢に向かって努力をしてみてもいいかがでしょうか。